

CAMPUS ENERGY

京都大学における継続的なエネルギーマネジメントの推進

京都大学では、2008年度より国立大学法人として初めて『環境賦課金制度』を導入しました。この制度は、賦課金負担による省エネルギーへのインセンティブの創出と、省エネ改善策に再投資する財源の創出を目的とする全学的な取り組みとして画期的なものです。

環境賦課金制度では、省エネルギー中長期計画に基づき、毎年、ESCO 事業や省エネルギー改修工事を実施してきました。省エネルギー改修による削減効果を把握、次年度の実施計画をたてることで、PDCA サイクルを確立しつつ、10年間実施し、現在も継続中です。省エネ改修の対象は、当初の大型熱源から、中小型設備にシフトする中で、近年はコミッションングを活用した運用改善や実験設備等に着目した省エネ活動を行うなど新たな取り組みを実施しています。

この結果、施設の新設や仕様のグレードアップがある中、単位面積当たりのエネルギー消費量は2008年度比で2017年度までに10%削減を達成しました。

日建設計総合研究所は、省エネルギー診断や中長期計画策定の豊富な実績をもって、京都大学における環境賦課金制度の運用支援を行っています。

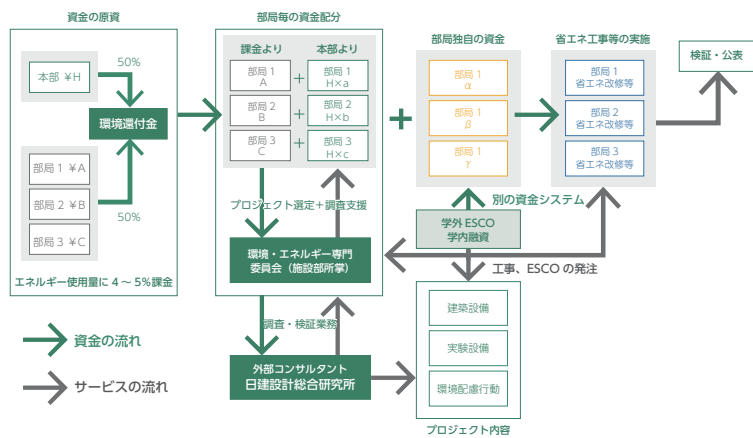


キャンパスの概要

- ・全構成員数 35,338人
- ・建物延床面積 1,356,782㎡ (2016年5月1日現在)
- ・大学全体原油換算 64,878kL/年 (2017年実績)
- ・第一種エネルギー管理指定工場：5キャンパス (吉田地区、病院地区、宇治地区、桂地区、熊取地区)

環境賦課金制度

部局からエネルギー消費量に比例して賦課金を徴収し、それ以上の省エネルギー対策を実施して還元。



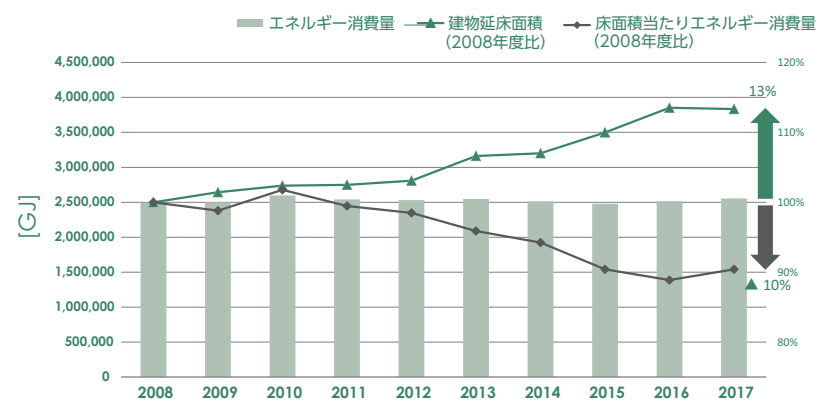
10年間の取り組み

毎年、ESCO 事業や省エネルギー改修を実施するとともに、省エネルギー中長期計画を策定し、中長期的な視点で環境賦課金制度を運用。

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
ソフト面	■京都大学環境基準 (2002年2月)	■省エネルギー推進方針策定 (4月)	■環境賦課金制度導入 (4月)	■「京都大学環境計画」策定 (1月)	■CO削減目標設定 (1月)	■省エネルギー中長期計画策定 (省中・院中を除く)	■省エネルギー中長期計画策定 (省中・院中を除く)	■省エネルギー中長期計画策定 (省中・院中を除く)	■省エネルギー中長期計画策定 (省中・院中を除く)	■省エネルギー中長期計画策定 (省中・院中を除く)	■省エネルギー中長期計画策定 (省中・院中を除く)	■省エネルギー中長期計画策定 (省中・院中を除く)	■省エネルギー中長期計画策定 (省中・院中を除く)	■省エネルギー中長期計画策定 (省中・院中を除く)
ハード面	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	■省エネルギー対策工事 (高効率空調機器、高効率照明器具、高効率圧入機)	

エネルギーマネジメント効果

施設の新設や仕様のグレードアップがある中、エネルギー消費量は横ばい、単位面積当たりのエネルギー消費量は10%削減 (年平均1%削減) を達成。



サステナブルキャンパスの構築

全員参加型で環境負荷を低減する「持続可能なキャンパス (サステナブルキャンパス)」構築のために、環境賦課金制度を活用。

環境報告書



地球温暖化対策優良事業者表彰



環境配慮行動の啓発ポスター



省エネ行動ステッカー

